



今月に入ってからロンドンやパリでは気温が35℃にも達するような状況がありました。当地では公共交通機関や学校にはクーラー(エアコン)は設置されていないとのことで、まさに命に関わる事態です。80年前の『越ヶ谷国民学校 校務日誌』に記録された日々の気温は、7・8月中で30℃を超えた日は数日でした。

新規指定の市文化財

新たに越谷市指定の文化財となった5件があります。本市教育委員会の諮問によって市文化財調査委員会では協議を重ねてきましたが、この度同調査委員会の答申があり、それをもとに教育委員会議での議決を経て告示(6月30日付)となりました。要点をご紹介します。

1 青い目の人形(付^{つけたり} パスポート、他) (越谷市教育委員会蔵)

米国の宣教師で同志社大学で教鞭をとったこともあったギュリック博士は、日米関係が悪化しつつあったことを憂えて国際親善は幼少期から培うべきと考え、親交のあった渋沢栄一を介して昭和2年(1927年)に米国の12,000体余りの人形を日本各地の学校に贈りました。後に太平洋戦争が始まると悲しい運命に遭った人形も少なくなかったのですが、町立大沢尋常高等小学校(現・市立大沢小学校)に送られた人形が奇跡的に残されていました。同人形にはパスポートや米国の子どもが書いた友情の手紙などを付^{つけたり}指定しています。(関連の付属史料も指定)



2 越ヶ谷小学校校務日誌

(越谷市教育委員会蔵)



校務日誌(現在では学校日誌)は法令では5年保存とされていますので、各学校では保存期間が過ぎた文書は順次処分されることが少なくありません。けれども市立越ヶ谷小学校には昭和15年度の『当直日誌』から学校日誌類が残されていました。(昭和18年度のものなし。名称は『宿直日誌』、『日誌』、『校務日誌』など。)このうち、昭和15~21年度の日誌が指定されました。戦中、終戦前後の学校の様子が具体的に記録されている貴重な史料です。この一部のページは図録『越谷から見た近代教育150年』でも掲載しています。

3 かわらぞねためいぼうすいきねんひ 瓦曾根溜井防水記念碑 (越谷市所有)

古来この地域は水の恵みと共に大きな犠牲を強いられることも多くありました。この石碑は明治23年(1890年)に利根川堤防が決壊したことによる水難の際に、多くの地域の人々の奔走によって被害をより小さくすることができたことを記したものです。題字は“日本近代郵便の父”^{ひそか}と言われた前島密によるものです。建碑は明治26年(1893年)です。この石碑は「自然災害伝承碑」として国土地理院の地形図にも掲載されています。



(国土地理院発行5万分の一)

右: 自然災害伝承碑の地図記号

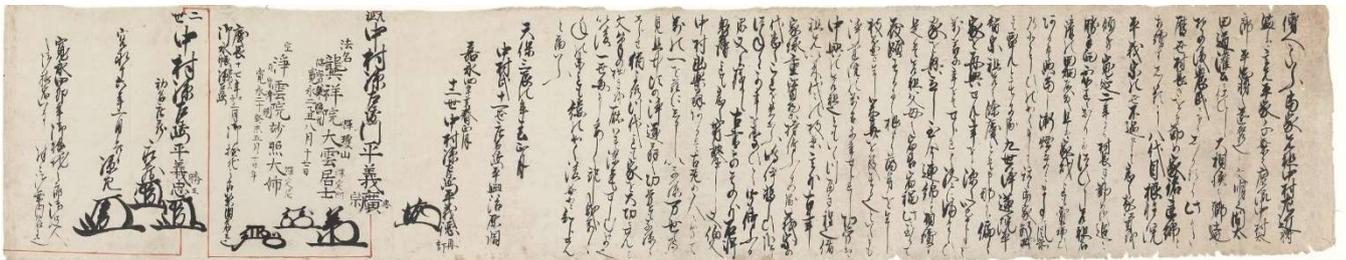


4 越谷隕石 (個人蔵)



明治35年(1902年)3月8日の明け方、市内の大里地区に落下したものです。当時の新聞でも報道されました。令和3年(2021年)に独立行政法人国立科学博物館に鑑定を依頼したところ、隕石であることが確認されました。国内で54番目に確認された隕石です。令和5年(2023年)には国際隕石学会から「越谷隕石 Koshigaya」として登録されました。

5 旧東方村中村家住宅(付^{つけたり} 中村家系譜) (個人蔵)



越谷市指定有形文化財である「旧東方村中村家住宅」は市域で最古の住宅とされていますが、この建築年代が確認できるのがこの系譜です。そのため、同住宅の^{つけたり}指定されたものです。ここには当家の由緒や歴代当主、それぞれの時代の出来事などが記されています。この記述によれば当家の古くからの言い伝えや各当主の業績を調査したのは第11代の興治で、それを整理して清書したのは第12代の義徳です。義徳は寺子屋も経営し、それは後の市立大相模小学校の母体の一つとなりました。

公開展示します！

パネル展示 8月19日(火)～25日(月) 8:30～21:00 越谷市役所エントランス棟1階ホール

実物展示 8月23日(土)、24日(日) 9:00～16:30 次の3か所の会場

展示の文化財	★青い目の人形 ★越ヶ谷小学校校務日誌	★越谷隕石	★旧東方村中村家住宅 (付 中村家系譜)	★瓦曾根溜井 防水記念碑
会場	大間野町旧中村家住宅	科学技術体験センター・ミラクル	旧東方村中村家住宅	上の地図参照。 上記期間に関わらず、常時見学可。
所在地	大間野町1-100-4	新越谷1-59	レイクタウン9-51	